

平成28年度 第4回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成29年3月30日（木）15時00分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：19名 オブザーバー：18名 計37名

○議事次第

説 明 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画の認定について
(2) 県市連携文化施設整備計画について
(3) 芸術文化ゾーンについて

報 告 (1) まちづくりマネジメント㈱の設立
(2) 秋田フォーラスの「地域まちなか商業活性化支援事業」申請
(3) 秋田市中通CCRC拠点整備事業
(4) 秋田市民市場活性化事業
(5) JR東日本㈱による秋田駅周辺の開発
(6) 中心市街地商店街環境整備事業
(7) 中心市街地循環バス「ぐるる」およびレンタサイクル利用実績

協 議 (1) 平成29年度事業計画(案)・収支予算(案)について

情報提供 (1) 秋田市中心市街地商業集積促進事業の改正について

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

年度末のお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。まずは3月24日、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受けましたことを皆様にご報告させていただきます。そして、本日はその核となる事業であります県市連携文化施設および芸術文化ゾーンについても進捗をご報告いただけることになっております。また、例年6月にご協議いただいていた事業計画および収支予算につきましても、基本計画の認定に合わせて各事業をスタートできるよう、前倒しでご協議をいただきたいと存じます。

さて、前回の協議会以降、掲載事業についても中心市街地の活性化に向け様々な動きが加速しております。JR秋田駅は明後日4月1日「ノーザンステーションゲート秋田」としてグランドオープンを迎えます。秋田杉による木質化で新たな顔となる魅力ある施設が完成いたしました。一方、東口においては「アリーナ計画」が公表され、健康・スポーツを通じた秋田の活性化に向け動き出しており、この後詳細をご報告いただきます。

また、「秋田フォーラス」は2月26日に閉館し、OPAとしてリニューアルオープンするため改装工事に着手しております。

更には、北都銀行様と秋田信用金庫様が共同で取り組む、中通CCRC拠点施設整備も具体化してきております。

本日は各事業主体の皆様から進捗についてのご報告をいただき、情報共有を図りながら、新年度における協議会事業についてご協議賜りたいと存じます。ご臨席の皆様からは、忌憚なきご意見をいただけますようお願い申しあげ挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【内 容】

説 明

(1)秋田市中心市街地活性化基本計画の認定について、秋田市都市整備部都市総務課の根田課長から説明があった。

3月24日付で、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受けたことをご報告する。なお、内容については秋田市ホームページに掲載し、4月の上旬には委員の皆様配布したいと考えている。区域は約115Ha、平成29年4月から5年間の計画となる。

新年度以降の対応であるが、毎年中間フォローアップ調査を実施する。自転車・歩行者通行量調査のほか、5つの目標指標について調査を行う。また、各掲載事業についても進捗を確認と取りまとめを行い、本協議会・市議会・内閣府へ報告のうえ公表する。計画終了後には全体の結果を取りまとめ公表する。説明は以上である。

次に(2)県市連携文化施設整備計画について、(3)芸術文化ゾーンについてを一括して秋田市企画財政部企画調整課の齋藤課長から説明があった。

県市連携文化施設整備計画については前回12月1日の協議会において最終案を説明させていただいている。その後、市議会、県議会を経て、2点の修正があったので説明させていただく。

一つ目は、一体的な敷地利用についてである。現県民会館所在地と隣接する和洋高校の駐車場とを一体的に利用すべきとのご意見を議会からいただき、その文言を追加した。

二つ目は、隣接地の確保についてである。駐車場予定地については当初、所有者の意向から賃貸借としていたが、より安定的な土地の確保に努めることとご意見を議会からいただき、県・市で協議し、取得も視野に入れ調整していく旨の文言を追加した。

基本設計については市から県に業務を委託して窓口を一本化し、プロポーザルで業者の参加を募っている状況である。3月31日には技術提案書をいただき、4月中に審査を進めていく予定である。

続いて、芸術文化ゾーンについて説明をさせていただく。今年度は第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の中に、活性化のための施策としてこの考え方を盛り込み、市議会等で議論を重ねるとともに、本協議会においても説明の場をいただき、皆様から貴重なご意見をいただいていた。位置付け、考え方、経緯等についてはご説明してきたとおりである。県市の役割については施設整備および既存文化施設の連携体制整備、イベント等市民活動の支援等がメインになると考えている。今後は文化活動をメインとした社会貢献活動やイベント等の取組みについて民間企業や商店街の皆様と協力、意識共有をしながらして検討を進めていきたいと考えているので、ご協力をよろしくお願いいたします。

関連があるので、旧県立美術館の活用についても説明させていただく。コンセプトについて変更はなく、創造・活動・交流をキーワードとした発信型・体験型の施設として活用を考えている。施設機能としては県市連携文化施設やにぎわい交流館とは異なる機能を盛り込みたいとの考え方から、レジデンス機能、キャリアー機能、アーカイブ機能を想定。若い世代が長期間使用可能であり発表・交流の場となるよう整備を進めたいと考えている。また、市議会からはそのような機能に加え、歴史の視点から秋田市の過去と未来をつなぐ機能や中心市街地および他地域への回遊性を高める機能を検討すべきではないかとのご意見もいただいている。今後は第2期秋田市中心市街地活性化基本計画に位置付けた事業として、検討を進めていく予定である。

【出された意見】

佐々木(清)委員（広小路商店街振興組合）

旧県立美術館を活用するということであるが、本当にこの施設は中心市街地に必要なのか。文化関係者の自己満足ではないか。

齋藤課長（秋田市企画財政部企画調整課）

旧県立美術館の活用の検討を始めた要因は、新県立美術館のオープンに伴い旧施設はどうなるのか、市の活性化のために活用して欲しいという声が市民から寄せられていたからである。現在は広く活用方法を検討している状況であり、引き続き進めていきたい。

高堂委員（大町商店街振興組合）

和洋高校の土地について、県市連携文化施設の駐車場用地として使用するだけでなく、何か別の活用方法はないのか。また、議会等で再検討する余地はないのか。

齋藤課長（秋田市企画財政部企画調整課）

一体的な敷地利用と隣接地の確保についてはご説明したとおりである。用途は駐車場のみに限らず、プロポーザルにより業者からの提案を募っている状況である。

佐々木(清)委員（広小路商店街振興組合）

県市連携文化施設について基本設計に入ってしまうと意見できる機会は少なくなってしまう。秋田市においては是非意見に耳を傾け、最後までご検討いただくことをこの場を借りてお願いする。

報 告

第2期中心市街地活性化基本計画掲載事業の進捗について各事業主体から報告があった。

(1) まちづくりマネジメント(株)の設立について、代表取締役の高堂理事長から報告があった。

12月5日に大町さきがけ跡地商業施設整備の事業主体となる法人を設立したことをご報告する。今後は入居テナントのバラエティーと秋田らしさの発信について検討しながら、補助金申請等スケジュールに則り進めていきたいと考えている。

(2) 秋田フォーラスの「地域まちなか商業活性化支援事業」申請について、(有)すぐる不動産代表取締役の木村秀三氏から報告があった。

平成29年2月27日に東北経済産業局に申請、3月24日に行ったプレゼンテーションでは秋田市都市総務課および商工貿易振興課からご参加、ご協力をいただいた。全国から6件の申し込みがあったようであり結果については4月初旬に公表される予定。中心市街地活性化アドバイザーの河村守信氏からプレゼンテーションの内容やリファイニング工法について補足説明があった。

(3) 秋田市中通CCRC拠点整備事業について(株)北都銀行地方創生部長の加藤敬氏から報告があった。1階から3階までは北都銀行、秋田信用金庫、薬局、小規模な保育所、クリニック等商業施設、4階から8階までは賃貸マンション、それ以上の階については分譲マンションを考えている。4月から基本設計、平成30年7月に着工、竣工はオリンピックイヤーの平成32年10月を予定している。

(4) 秋田市民市場活性化事業について、理事長の進藤政弘氏から報告があった。

3年間検討を重ねてきた事業「なんもだーサービス」のキックオフイベントとして、2月25日に「なんもダイニング」を開催した。当日は通常営業時とは異なり幅広い年齢層のお客様4,000名以上が来場し、市場内が賑わった。今までは買物のみでご利用いただいていた当市場であるが、買ったその場で食べていただくことで少しでも身近なイメージを持っていただけたのではないかと感じている。活性化事業としては今年度で終了となるが、今後も中心市街地の活性化に向け、様々な施策・イベントを検討していく方針である。

(5) JR東日本(株)による秋田駅周辺の開発について、秋田支社長の菊地正氏から報告があった。

3月22日に秋田新幹線こまち開業20周年を迎え、4月からは大型観光キャンペーンもスタートするというので、「ノーザンステーションゲート秋田」というプロジェクトタイトルのもとキャッチコピーを「秋田はきっといい日になる」として秋田駅周辺の一体的整備に着手した。

直近の取組みとしては「JR秋田ゲートアリーナ計画（仮称）」ということで、秋田駅東口に城東スポーツ整形クリニック（仮称）の開業、バスケットボールを中心とした体育館と子育て支援施設の一体的整備を発表させていただいた。引き続き第2期秋田市中心市街地活性化基本計画や秋田版CCRC計画と連動しながら官民一体となって取り組み、健康・スポーツを通じた秋田の活性化に繋げていく方針。

(6) 中心市街地商店街環境整備事業について補助事業が終了した3商店街から報告があった。

ハンギングフラワー設置事業を実施した秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長は、全国女性会議で秋田市に集まった方々からも好評をいただいていた。徐々にエリアも広げられるよう検討を継続したいと述べた。

川反外町Wi-fi設置事業を実施した川反外町振興会の長澤会長は、補助事業での設置は3店舗であったが、新たに2店舗から申し込みが来ている。取り組みを継続している「川反案内サイン設置事業」とともに今後も事業推進にあたりご指導・ご協力をお願いしたいと述べた。

イベント販促用機材整備事業を実施した秋田市通町商店街振興組合は欠席。商品陳列用ワゴンおよびテントの購入により、イベント時に商店街として一体感を演出できた旨事務局から報告した。

(7) 中心市街地循環バス「ぐるる」およびレンタサイクル利用実績について資料に基づき事務局から報告した。

【出された意見】

佐々木委員(考) (NPO法人 秋田バリアフリーネットワーク)

中心市街地循環バス「ぐるる」について運行ルートの変更の余地はないのか。

佐藤課長 (秋田市都市整備部交通政策課)

「ぐるる」については現在、秋田中央交通(株)の車輛をお借りして運行している状況である。バス車輛の特性上右左折が困難な箇所もあり、現状での見直しは困難である。今後については広小路および中央通りの一方通行等道路情勢を勘案しながら引き続き検討を進めていきたい。

協 議

(1) 平成29年度事業計画(案)・収支予算(案)について事務局から説明。例年6月にお諮りしている案件であるが、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画が認定となり、各事業について可能な限り早い段階でスタートさせるべきであるという考え方のもと本協議会にて諮る旨を説明した。事業計画(案)には新規事業として「芸術文化ゾーン活用研究会」、「中心市街地活性化支援事業」等が盛り込まれ、収支予算(案)とともに特段意見もなく満場一致で可決承認された。

情報提供

(1) 秋田市中心市街地商業集積促進事業の改正について、秋田市産業振興部商工貿易振興課の古仲課長から資料に基づき説明があった。

その他

JR東日本(株)秋田支社の永杉地域活性化推進室長から頒布品が配布され、事業推進・発信についての協力依頼があったほか、事務局からは「これが秋田だ！食と芸能大祭典 2017」についての開催を告知した。

また、退職により本日が最後の協議会出席となる秋田市都市整備部の戸田部長よりご挨拶をいただき、終了した。

閉 会